


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		利用者のその人らしい生き方と穏やかな生活、そして利用者とともに事業所も地域の暮らしに溶け込むように理念の構築に取り組んでいきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		コミュニケーション介護と考え、担当者スタッフの連携を密にして、個別ケアの充実に取り組んでゆきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ホーム便り等を再発行したい。(第一回の発行から停止している。)
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域に役立つ事に取り組んでいきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		色々な行事に参加したり、日常のボランティア活動を受け入れ(お願い)に取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在のところ研修の受け入れ要請の具体的な話しも無く、地域との勉強会などの実績も無い。</p>		<p>地域貢献の方法も検討したいが、現状は介護職員が不足しがちのため、管理者もケアに係ることが多く、難しい状況でもある。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価を参考に、仕事の内容、考え方など具体的に個別ケア計画に生かしている。</p>		<p>個別ケアの改善や地域との係り、繋がりなど職員の理解を深め取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議メンバー就任の同意を得たが、実際の会議は開催されていない。</p>		<p>なかなか手がまわらないのが現状。早急に取り組んで行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町等からの見学者の受け入れは話しがある毎に行い、実情などの説明をしている。町担当者からの随時指導もある。</p>		<p>町担当者とも随時相談したりしているが、更に意見など取り入れ、質の向上に取り組みたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>印刷物を読んで学んでいる。研修等に参加したいが、職員が不足がちなため参加しにくいのが現状である。</p>		<p>研修会等があれば可能な限り参加し、勉強し理解して行きたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>実際の業務を通して、徹底を図っている。言葉での行為にも注意している。</p>		<p>防止は当り前のこととして研修会等の参加で理解を深め、実践としても取り組んで行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には介護方針やケアのすすめ方など、契約時には具体的な契約内容、色々なケースの対応の取り方などの説明と相手からの質問などを受ける。		今以上にわかりやすく信頼関係の基礎となるような説明をして、理解していただくよう取り組みたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にも変わった様子や不満など話すことはないか聞いている。利用者の普段の様子から観察したり、何気ない会話で探ったりしている。		不満や意見が埋もれないよう、職員の認識を高めたり、話しがし易い機会を設ける取り組みをしていきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態、医療機関の対応、物品の購入についてや費用の掛かる事などは、家族の意向を電話や直接に相談している。		状態の報告には随時行っているが、定期的なおたより等工夫して取り組んでいきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来ていただいたとき、出来る限り管理者がお伺いしている。		家族の方が話しやすい雰囲気を作り、遠慮なく話し合える関係を作って行くよう取り組んでいきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やミーティングでは話しづらいこともあるので、随時個別に時間をとるとともに、職員も何かあれば積極的に話しに来る。		個別面談の機会を増やしたい。集中的に話し合える時間を作りたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況や仕事の内容によって可能な限り勤務の調整はしている。職員が不足がちのため、そう思うようにはいかないのが現実である。		利用者の生活に合わせた職員の勤務調整に加え、ボランティアの活用にも取り組みたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ大きなダメージを示される方はいない。事前に話したり説明したりしている。後任の担当者への引継ぎもスムーズにするよう注意している。		一人一人利用者に担当者を配し、家族への連絡も中心になってやってゆくようにしたい。その中で影響が出ないように配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加は積極的に勧めたいが(非常勤職員を含めて)、勤務人員の関係で勤務予定と研修会の日程が合わないと参加させられない。		職員が充足してきたら積極的に外部研修は参加させたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者と市町による連絡協議会が平成19年10月19日に設立を予定している。		交流した情報を参考に質の向上に取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務予定で希望休日や要望は出来る限り受けている。職場の問題もできる限り先送りせず行っている。		職員の話しに耳を傾けるなど個人的、及び職場内のことなど出来るだけ把握出来るよう取り組みたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格の取得を促し、取得者へは手当の支給や昇格など適性をみて行う。非常勤職員の正職員の登用など適性をみて行う。		個別面談を充実させていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話しだけにならないよう契約前に本人とお話しをする機会を作っている。部屋などに案内し本人の反応や感想などに注意している。		家族の考えが強くなりがちだが、誰が主体なのか間違えないように取り組んでいきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の状況や困った事、苦労話など契約時などに十分な時間を持ち聞く。来所された時など、常に声を掛けるようにする。		利用者の状況や事業所のことなど随時的確に報告するよう更に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る事はすぐに行う。他の職員との連携が必要なときや、家族への相談、報告が必要なことなど判断し対応する。どんな内容でも親身になって話を聞く。		無理なことでもすぐに「出来ない」などとせず、本人の気持ちを大切にしたい。全部は無理でも、そのことに少しでも近づけるなど可能性を持った対応で取り組んで行く。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は利用者の話を良く聞くようにする。又、意思表示が出来ない人には出来るだけ近くで接し、安心感を持っていただくように努める。他の利用者との関係もサポートしてあげる。		利用者に孤独感を与えないよう職員も接するが、家族にも「里心がつく」などと考えずに、出来る限り顔を見せるようお願いしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の気持ちを大切に、一方的なケアにならないよう努めている。利用者同士の関係も尊重し、笑ったり、泣いたり、怒ったり、自分らしい自然のままの姿で暮らせるように見守る。		個人の生活と共同生活を融合し一人一人のその人らしさと、お互い認め支えあう暮らしを築くよう取り組みたい。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に相談、同意を得ながらケアしてゆく。家族の思いを共有し、ときに家族になって援助している。		随時はもちろんであるが、定期の報告をしっかりと行ってきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の事情も考慮しながら、本人の思いや状況を伝え理解を得ている。		家族も無理がなく継続して出来るような面会や援助をお願いして行く。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には可能な場合車で出掛けている。友人、その他の方との連絡などはこちらから行くことはなかった。		家族中心の援助であった。本人の希望を聞きながらその他の方との支援も取り組んで行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者人間関係も難しく合う人合わない人がいる。それを良く見極める。職員がかかり過ぎて良くなく、適切に間に入ったり見守りながら支援している。		「何で私が」とか「あの人は…」ではなく、お互い様の気持ちになっていただくような関係になるよう取り組んで行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時に「何かあったらご相談ください」とはお話するが、積極的に関係を継続することはしていない。		今後は検討したい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えられない人について、顔の表情、普段の様子、話しの内容から汲み取り、それとなく話を聞いたり家族に相談をしている。		毎日のコミュニケーション、様子の観察を丁寧に行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前後に家族の方と本人に話を聞いている。本人には毎日の会話の中で聞くように工夫する。		色々なことを話せる関係作りに努めて行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムやこだわり、考え方。一日の体調の変化の様子。出来ること、思うように出来ないこと、やりたいことなど把握する。		心理面にもっと注意を向けた取り組みをしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活状況からの情報、職員が考えたことが主体となっている。家族との話し合いは十分ではなく改善して行く。		家族、本人との話し合いの場を設けたい。プラン作りに取り組みたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しや次期の計画も十分な検討が加えられていない。家族との話し合いを形だけでなく、内容を充実させたい。		状況や本人の気持ちを十分考えた計画作りに取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルでバイタルや食事、入浴などの記録を行っている。ケアの改善にも生かしているが、やったことの記録で終わってしまうことが目立ち改善して行く。		言葉、その時の様子、職員の感じたことなど具体的記入が出来るように改善、工夫して行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な病院の対応はもちろん、定期的な通院や検査、眼科、皮膚科、整形医院など、多様な身体的なニーズに合わせ援助している。		利用者の個人的なニーズで整体師さんに来ていただいている。その他で活用できることがあれば相談をして行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署から防災に関するアドバイスをいただく。一人で外出されてしまったときの事故防止のため町会や警察、地元商店、最寄駅に協力を求めた。全盲の利用者と図書館に点字本を借りに行く。		ボランティアの活用に取り組みたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所のケアマネジャー等との相談は随時行うが、実際に活用された例はない。		利用者に多様なサービスを利用してもらえるようにして行きたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に実例はない。必要な事については利用者の支援をして行きたい。		運営推進会議に包括支援センターもメンバーになっており協力関係を築きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診については本人、家族の意向を元に適切に支援している。		現状の維持をすすめて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と相談しながら提携の精神科病院に受診している。		家族との相談を前提に今後も色々相談できる関係を作って行きたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格のある職員を計画作成担当者として配置した。生活記録や通院記録など見たり、直接病院に相談し、状態に応じた支援をしている。		記録の整備と病院へ相談できる体制の充実に取り組みたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には定期的に面会に行ったり病院スタッフの話しや家族の話しを聞き、退院時の受け入れに備えている。		入院時の利用者の悩みや、家族の退院時の不安などに応えられるよう努めて行きたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対し、契約時に緊急の対応や、重度化した場合の考え方、方針はお話している。実例がなく具体的な方策は無い。		重度化については他施設への移転の方向。終末期についてはそのケースによるが、家族と医師への相談を十分に行って対応して行く。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度者の利用の方針は無く、他施設への移転での対応となる。その場合は早めに家族に相談しながら行う。終末期については実例がないが、家族や医師と相談しながらの対応となる。		家族の考え方とホームでどこまで出来るかを考え、検討して行きたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や利用者、移転先の要請にあった支援をして行く。		家族や利用者、移転先の要請にあった支援をして行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の対応の中で自尊心を傷つけたり、プライバシーを損ねる行為には十分注意している。</p>	<p>職員個々の対応に不十分なところもある。より意識の向上に取り組んでいきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>買い物や散歩など本人の希望に沿って行っている。又どこそこに行きたいなどの希望も出来るだけ応えている。</p>	<p>生活の随所に利用者の意見を盛り込んだ取り組みをしたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や入浴の時間は概ね決めている。他の日程は、その日の都合や利用者の体調などに合わせている。</p>	<p>規則正しい生活を基本にしているが、臨機応変な支援をしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>無理のない範囲で朝、夕の着替えはしている。散髪はその人の希望で外のお店に行く。男性は朝の髭剃り、女性も外出時に身だしなみに時間をとって支援している。</p>	<p>女性のおしゃれの支援や、理美容店への外出などを今後も多くしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下ごしらえなど手伝っていただいている。利用者が作ったプランターの野菜も活用する。職員も見守りしながら一緒に食事をする。</p>	<p>出来る人、出来ない人に制限されてしまうが、食事の準備などもっと一緒に出来るようにしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコは職員が預かり、後の火の元まで確認している。酒類を飲まれる方はいない。おやつなどは買い物と一緒に買った人の希望などで買ったり、季節に合わせたものになっている。</p>	<p>なかなかご自分の希望を言っただけでない人が多いが、出来るだけ汲み取っていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの声掛け、誘導は個々の対応で、時間や方法を決めた上で様子を見ながら対応している。体調によってオムツを使用することもあるが、昼間はDパンツやパットに替えトイレに誘導している。		便秘がちの人には排泄表で状況を確認。医師のアドバイスを受けながら対応して行きたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね日程を決めているが、その都度希望を聞き、時間の調整や日の変更をしている。体調で足浴や清拭も行う。		利用者の希望を柔軟に取り入れられるように取り組みたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	空調の調整、布団干しなど気持ちよく眠れるよう心掛けている。睡眠リズムが変わったときは、昼間に散歩や話し掛けなど増やしている。		体調、精神の両面を考慮した取り組みをしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	細かい作業の出来る方はいない。掃除は出来るだけ多くの人に、その人の出来ることをやっていただく。うどん作り、だんご作り、草花の手入れなど出来ることを探してやっている。		多様なことが出来ればと検討している。環境面、利用者及び職員の状況によるところもあり、考えるようにはいかないが、取り組んで行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力で自己管理している方。家族から預かり使用するときには本人に渡して使用の方。ホームで全て管理する方がいる。		衣類や身の回り品の購入に行っているが、その時にご本人のお金を所持してもらうなど少数での対応をして行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食品の買い物に交代で出かける。個人的な外出の希望も職員の対応が取れば応える。又、家族にお話する。季節の花見なども行っている。		食品だけでなく、個人的な買い物にももっと対応して行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の対応が取れば出来るだけ行っている。以前住んでいた所の様子を見に行ったり、空家になっている家の草むしりを一緒にしたりする。		職員の配置にもう少し余裕が出来ればもっと柔軟に希望に応じて行きたい。又、家族への協力もお願いする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を自室内で使用していただいている。番号は職員が押しその後室内から立ち去る。家族からの電話も自室で話していただく。年賀状も支援しながら書いていただく。		年賀状だけでなく、ハガキや手紙など頻繁に出していただくように支援したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の枠は定めていません。自室やソファなどで過ごしていただいています。一緒に食事を召し上がっていただくこともある。		気軽に過ごせる環境を作って行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務やミーティング、会議などで確認、認識を高めている。		人的余裕が出てくれば外部研修の参加もしたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はほぼ自由に出入りできるようになっており、職員も見守りを主に声掛けをして対応している。夜間は1F玄関のみ施錠している。		職員の認識を高め、更に徹底を図って行きたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は利用者と同じ場所で記録など様子観察を行っている。夜間も2時間置きに居室の巡視や直ぐに対応できる体制でいる。		夜間フロアの徘徊も安全に配慮しながら、特に危険性や他に迷惑が及ばない限り行動の制限はしない。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になりがちな面もある。一つ一つのケースを検討して行きたい。		過度な対応にならないよう配慮して行きたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し付き添い、見守り、声掛け確認で事故防止に取り組んでいる。		事故発生の場合は医療機関を始め関係機関への速やかな対応、家族への連絡、事故報告書の提出を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	平成17年12月27日救急救命士による応急救護訓練 平成18年2月9日 同上 平成19年5月31日普通救命講習会を実施		今後も定期的に行って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練や避難経路の指導、消火器の使用訓練など定期的に行っている。		今後も定期的に行うとともに随時消防署に相談して行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の気持ちを大切にされた生活と、それから考えられるリスクの関係、職員の安全への取り組みを相關的に契約時及び必要ときに随時説明し、理解していただいている。		家族の理解をもとに、安全に配慮しながら本人の意思を大切にされた生活環境を作って行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェック、食事の状況、排泄、睡眠状態、顔の様子、表情などの変化を観察。状況に応じた対応を速やかに行っている。		夜間も管理者や家族への連絡も速やかに行い、医療機関への対応も迅速に行っている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院ノートを作成し、体調の変化、医師の診察内容、処方箋についてなど個別に整理している。服薬も本人、介助による服用も確認している。		記録ノートを更に使いやすいものにするよう改善を図って行きたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については日頃の排泄状況から、食事、水分、運動等に注意している。必要に応じて医師の相談も速やかに行っている。		飲食物の工夫や運動など更に取り組んで行きたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがい、歯磨きの声掛け、援助を行う。夕食後の義歯洗浄も介助や見守りして行う。		食後の歯磨きやうがいを習慣づけられるようにして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況は毎食チェックしている。食事量も個々に把握し調整している。定期的に管理栄養士にアドバイスをもらう。		体調の変化によっては細かい摂取状況の記録など取り組んでいきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員は職場内研修や印刷物にて知識の修得をしている。利用者には、食事前、外出、掃除後の手洗い、うがいを習慣にさせていただく。インフルエンザ注射も同意を得て行っている。		感染予防に関する認識が不十分なところもあり、専門機関の協力なども求めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材購入はできるだけ行っている。毎日の器具などの殺菌や冷蔵庫の点検も行う。		食材や冷蔵庫の点検などを更に徹底したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチを置き誰でも休んでいただくようにしてある。		親しみ感のある雰囲気を整備していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやテレビの位置、飾り付けなどは利用者の意見を聞きながら変化を持たせている。散歩で採ってきた草花など飾ったり、七夕飾り、十五夜飾りなどしている。		季節感を取り入れた環境にしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダに座る場所を作り自然の風を感じていただいている。気のあった人たちで座れるテーブルの配置にしている。		工夫してゆったり出来る生活環境にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いし、使い慣れた物や親しんだ物、写真などを持ってきていただくようお願いしている。		利用者の状態によっては殺風景になってしまうこともある。家族にもお願いし職員も利用者の状況を考えながら工夫してゆきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温や天気、時間帯、利用者の状況をみて調整している。		臭気などにも更に気を配って行きたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況にあわせ、トイレや浴室の手すりを増設した。		利用者の状況をみて安全の確保に努めて行く。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋、トイレの場所など矢印やお名前や目印など最小限に付けている。		安心できる生活環境作りを利用者の様子を観察しながら工夫して行く。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで野菜や草花のプランター栽培をしている。		洗濯物干しの場所など工夫し、ベランダを憩いの場として整備したい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

正直に言って現在作成のケアプランは通り一遍のものになっている。(言い訳であるが、職員の変更もあり十分な取り組みが出来なかった) 今後は担当者との相談と本人の希望もふまえ、ケアプランを充実させ、それによってスタッフが一致協力し同じ方向性のもとで利用者の人らしい生活を援助して行きたい。

アピール出来ることなどは無いが、グループ内の掃除を毎日半数以上の方が出来る範囲で一緒になって行っていただいている。